

MA2022 Department of Architecture Meijo University Yearbook 2022

名城大学建築学科・大学院建築学専攻
優秀作品集 2022

←CONTENTS | 目次

名城大学建築学科・大学院建築学専攻
優秀論文・作品集

Department of Architecture
Meijo University Yearbook 2022

[発行]

2023年3月17日 初版発行

[発行元]

名城大学理工学部建築学科

〒468-0052

愛知県名古屋市天白区塩釜口1-501

名城大学理工学部建築学科

052-832-1151

<http://wwwra.meijo-u.ac.jp>

[編集]

磯貝由奈 大津留依舞

白石光 森本莉央

巻頭企画 | 佐藤布武

[監修]

佐藤布武

[印刷・製本]

株式会社グラフィック

本書の無断転載、複製、複写の一切を禁ず

Printed in Japan

Copyright ©Meijo University

Diploma Projects

卒業設計

079 最優秀賞 — 「ウガンダ Kantaga 地区を対象とした
スラム自立更新システム」 新井花奈

078 優秀賞 — 「水の循環で生まれる暮らしの環
— 上下水道から自立した都市の住まい」 牛田結理

077 優秀賞 — 「住まいと商いの井戸端コンデンサー
— 帰ってきたい場所として存在する、都市の住まい方の提案」 西本帆乃加

076 アーキテクト賞 — 「ON SUMIDA TOILET — 公衆トイレによる防災都市づくり」 種田季林

075 3 — 4 都心複合施設
磯貝由奈 — 大久保日葉里 — 岡田萌々花 — 川上依吹 — 石川翔希 — 白石光
高木柊 — 松野尾航生 — 和田明花

3 — 3 エリアリノペーション
磯貝由奈 — 岡田萌々花 — 塚本莉子 — 中澤凌大

3 — 2 体験・滞在型余暇活動施設
岡田萌々花 — 石川翔希 — 田中めい — 松野尾航生

3 — 1 小学校
磯貝由奈 — 白石光 — 都築萌 — 和田侑也

Selected Works

課題優秀作品

3 年生課題

063 2 — 4 集合住宅

磯村今日子 — 勝谷采音 — 佐藤翔真 — 中村千紘 — 久安舞 — 本杉愛梨

2 — 3 住宅

磯村今日子 — 遠上朋暉 — 澤田明里 — 田口心唯 — 増田広海 — 本杉愛梨

2 — 2 交流施設

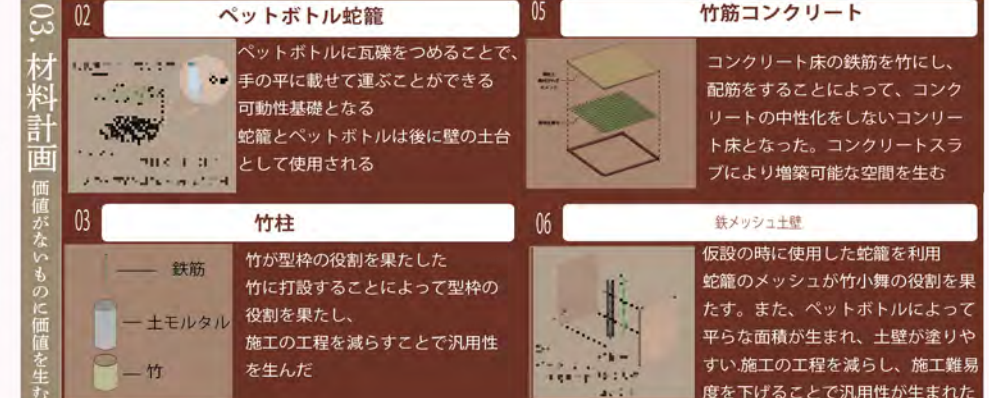
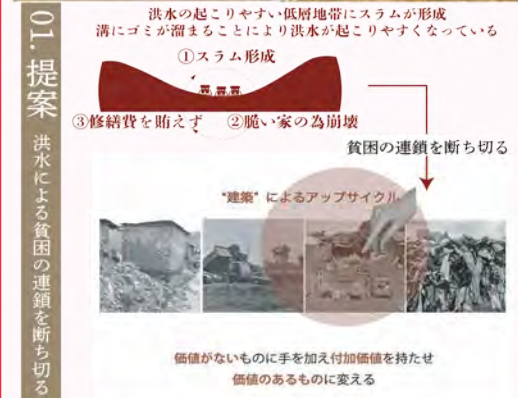
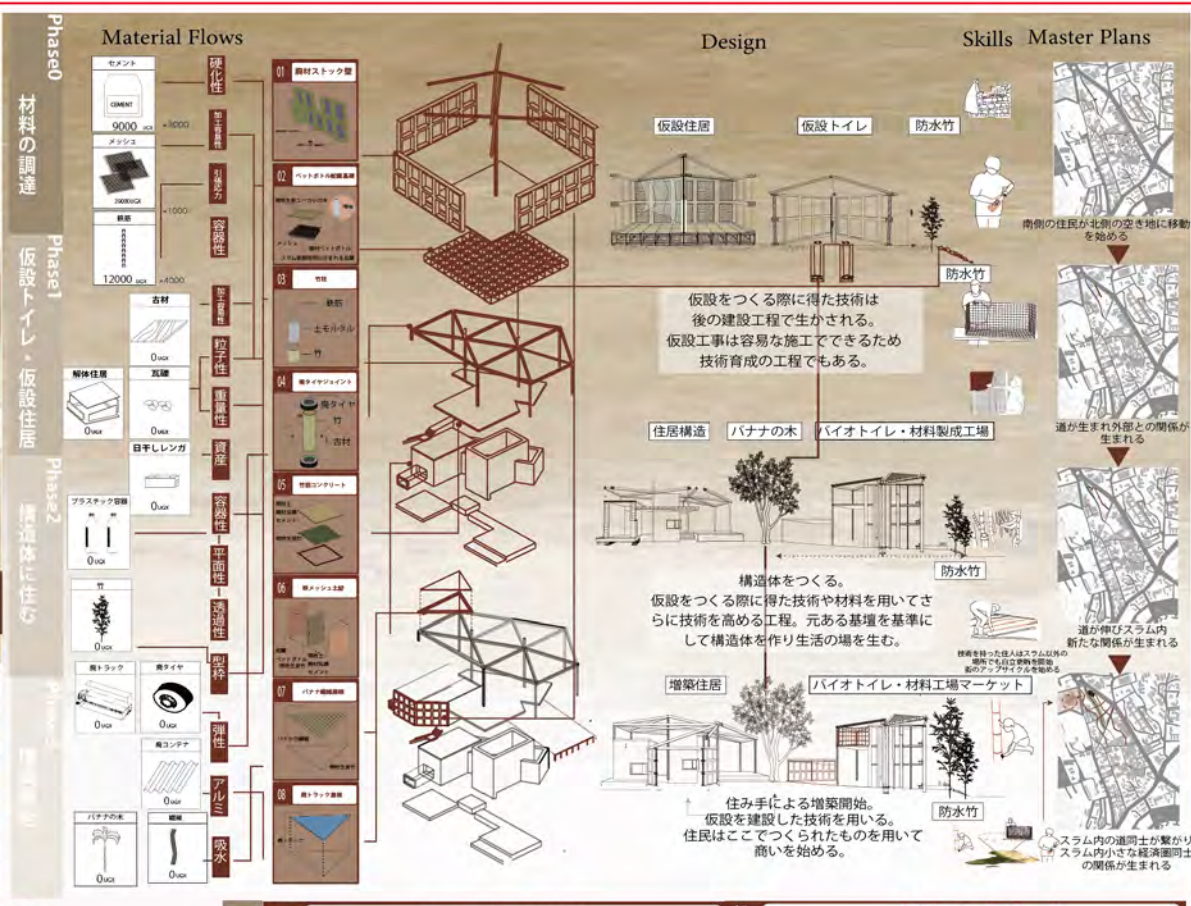
犬飼采那 — 甲斐百恵 — 澤田明里 — 中村千紘 — 伴拓実 — 本杉愛梨

2 — 1 自室

犬飼采那 — 甲斐百恵 — 澤田明里 — 西澤由翔 — 伴拓実 — 本杉愛梨

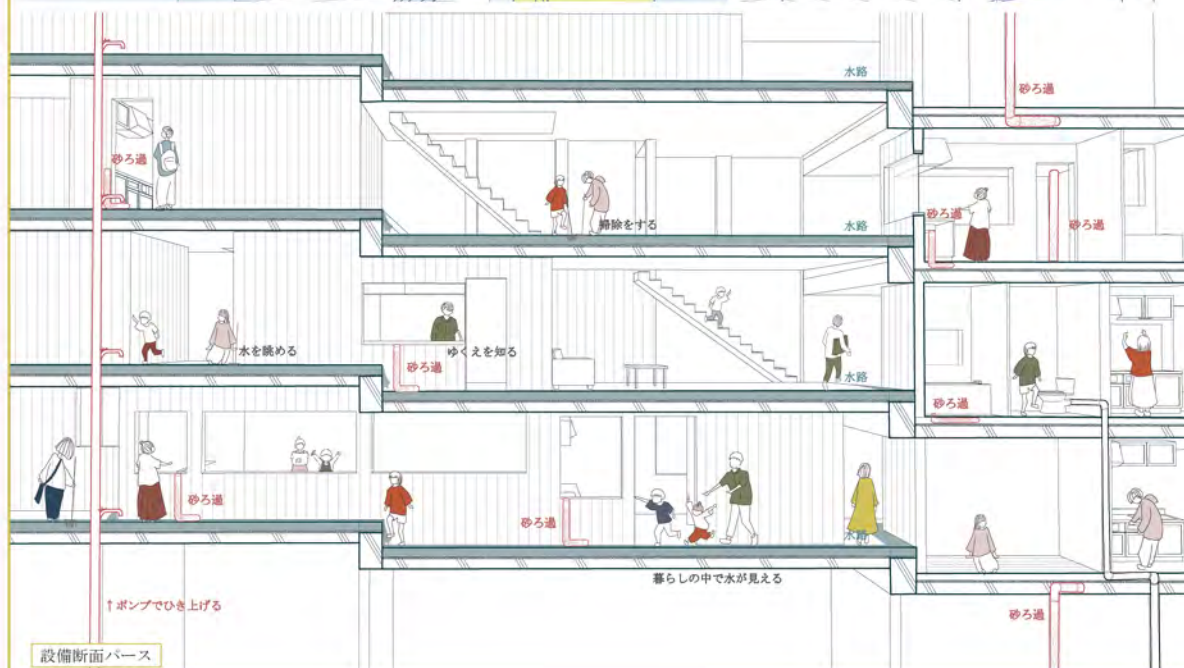
2 年生課題

Uganda Kanataga 地区再編計画 ~自立共生体のための循環的設計手法~
新井花奈



水の循環で生まれる暮らしの環 -上下水道から自立した都市の住まい-

牛田 結理

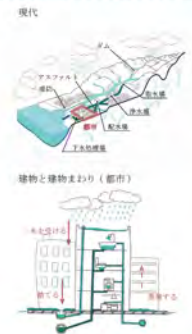


問い

昔の人は、川の近くに住み水を汲みに行くことで生活を成り立たせており、水の循環の中に人の営みがあった。

しかし、近代化が進むと、社会が堅固な構築物で水を管理するようになり、まちは水を確保する場と水を使う場を切り離した状態になってしまった。

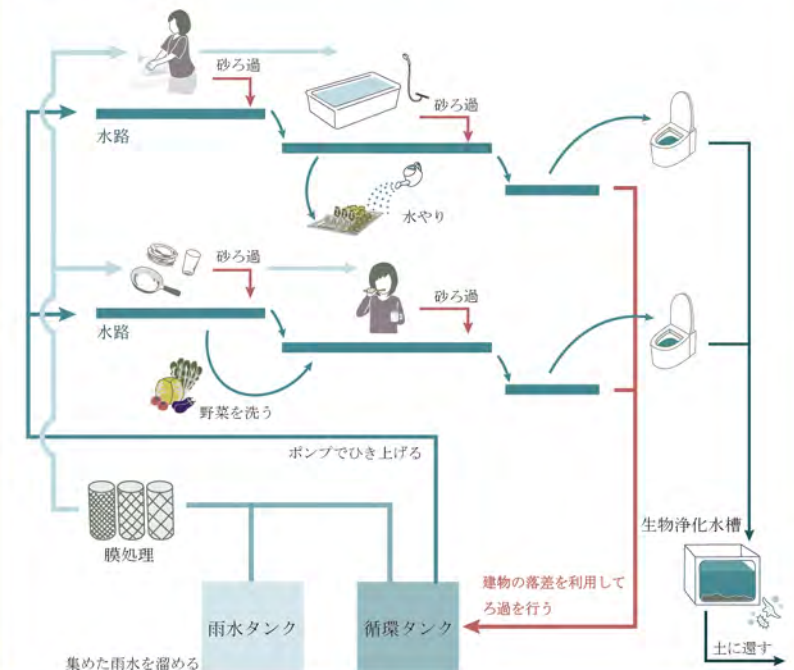
私たちは、どこの水を飲み、水がどこへいくのか知らない



提案

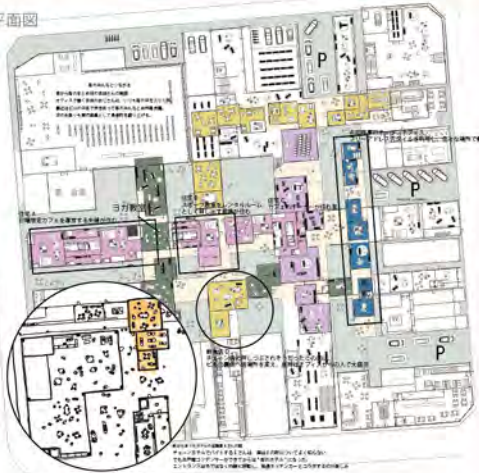
水を消費するものとして扱うのではなく、借りるものとして扱う。社会が水を管理して人が水を消費するのではなく、**建築が雨水を溜めて人が水を借りて還す関係をつくることで、都市に新たな水の循環を作り出す。**

上水道に頼るのではなく、どのまちにも降り注ぐ雨を活用して水を溜め、生活用水として借りる。そして、大きな水処理場に頼らずに、**集合住宅内で水を浄化・循環させるシステムをつくることで、消費ではない、水利用デザインを実現する。**

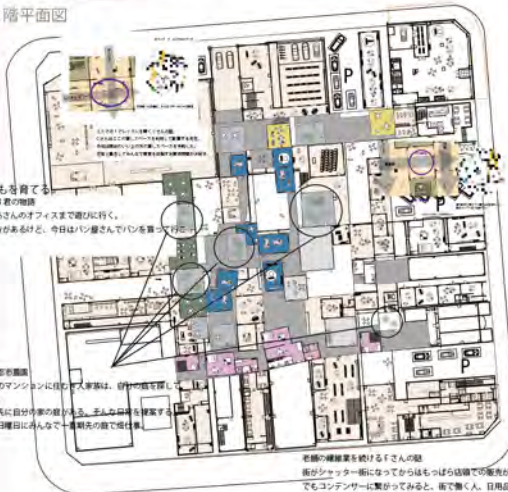


住まいと商いの井戸端コンデンサー 西本帆乃加

■ 1階平面図



■ 2階平面図



■ 着想 都会の街

都会の街は背の高い四角い箱の連続で、入口は地上の一つだけ。ビルの賑わいは外には漏れず、閉塞的空間と化している。子供の頃の街の思い出となるような風景が都市にも広がり、大人になっても帰ってきたい場所として存在すること。愛する地元としての都市のあり方を模索する必要があるのではないだろうか。

入口は1階に1つだけ
ハコに賑わいが閉じ込められている



■ 敷地 長者町繊維街

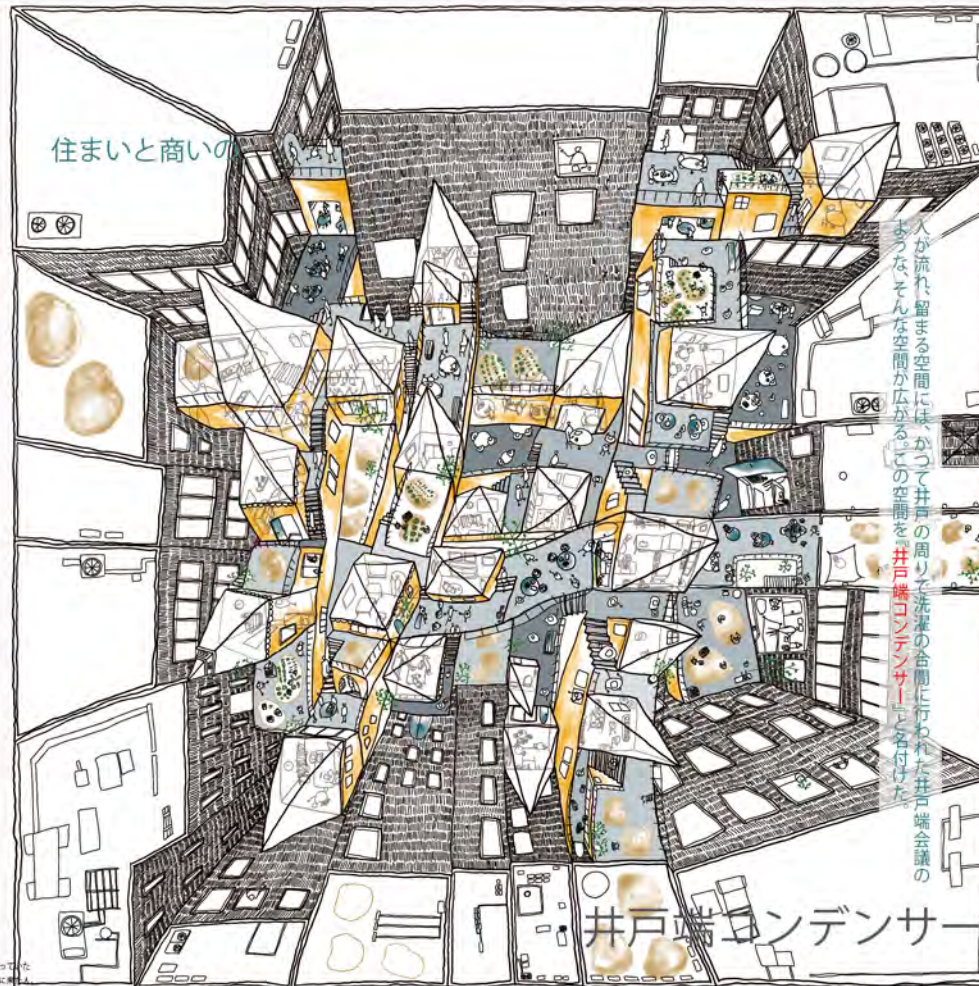


■ 街の未来 長者町のこれから



長者町繊維街の核として、これからの街をつなぐ

住まいと商いの



井戸端コンデンサー

■ ダイアグラム ビルをつなぐ



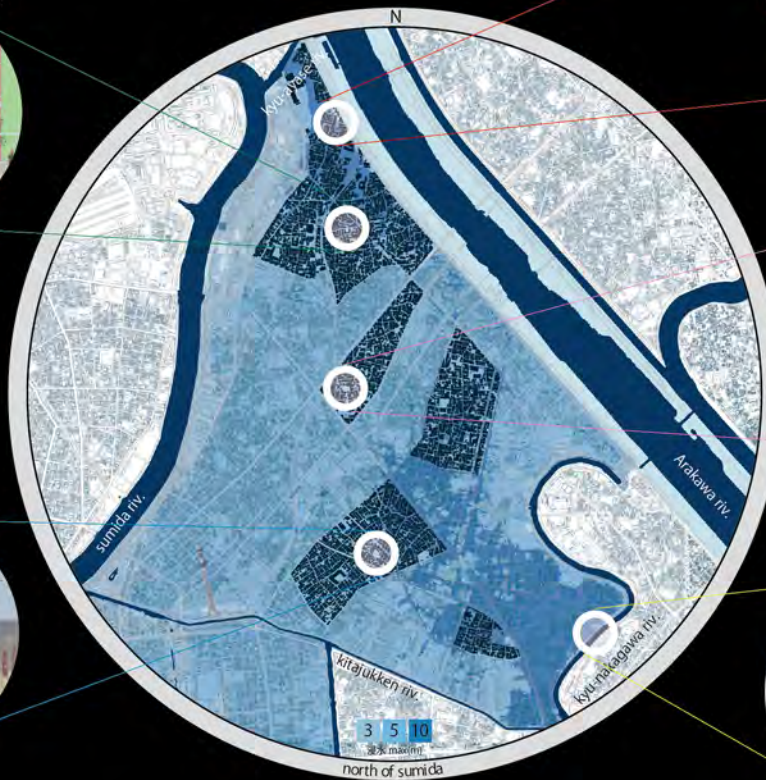
ビルそれぞれの機能を区画の中心へむかって伸ばすように設計し、ビル同士をつないでいく。

- shop
- 飲食店
- 住まい
- オフィス
- レンタルスペース

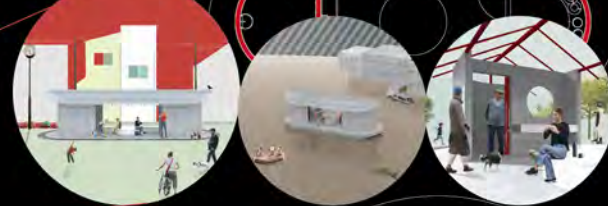
ON SUMIDA TOILET

種田季林

ON SUMIDA TOILET



boat toilet



tent toilet



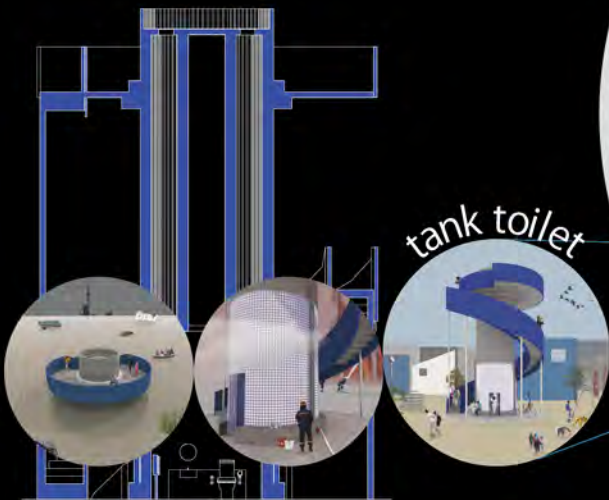
torch toilet



oasis toilet



tank toilet

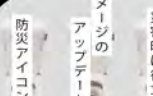


公衆トイレ
Public toilet

まちのいたるところに存在する建築『公衆トイレ』。地位や立場に関係なく誰もが利用できるこの建築にはもっと可能性があるのでは……



公衆トイレは設置義務からお金や労力をかけて建てるがネガティブなイメージから常時には使われず災害時にはインフラが止まったら使うことができない『もったいない建築』



そんなもったいない建築『公衆トイレ』のネガティブなイメージをアップデートし、常時にも災害時にもまちの役に立つ防災アイコン公衆トイレを提案。

墨田区北部
Sumida Tokyo Japan



対象地区は東京都23区の墨田区北部。災害の危険性が高く、日常的に防災意識が必要。



5つの川に囲まれた東京低地のため水害の際にはほとんどの場所が最高5m以上の浸水が想定されている。



関東大震災や東京大空襲の被害を免れた歴史から木密地域が多く、地震による火災や家屋の倒壊の危険性が高い。

対象地区に現在設置されている公衆トイレから、より災害の危険性や被害想定が高い地域のものを5つ選定し、新たな公衆トイレを提案。

都心複合施設 - 学部三年 後期第二課題 -

担当教員：生田京子・谷田真・久保久志・橋本健史

到達目標

本計画では、まちの顔となる都心複合施設を提案する。平日のオフィスへ勤務する人々への姿、土日の商業施設利用者への姿など、時間軸に着目して考えた。人・情報・モノの集まる場・発信の場づくりを目指す。

敷地は都市市街地の骨格を形成し、市民の憩いの場でもある久屋大通公園に面した街区である。まちなかに更なる賑わいを創出し、中心市街地の活性化の一助になることを望む。

敷地

住所 | 名古屋市東区（一部中区）

敷地面積 | 5,000 m²程度

既存敷地は無く、更地であるものとして計画する。地下街等との接続にも留意する。

関連法規 | 商業地域、防火地域、
駐車場整備地区
建蔽率 80% 容積率 800

配置機能

①図書館部門（約3,000 m²）

・開架閲覧機能（約1,800 m²）

・児童図書閲覧機能（約700 m²）

・学習機能（約500 m²）

②生涯学習部門（約2,500 m²）

・ワークショップ機能 大部屋（約500 m²）、小部屋（約600 m²）

・オープン活動機能（約600 m²）

・創作活動機能（約800 m²）

③子育て支援部門（約500 m²）

キッズパーク機能（約400 m²）

一時保育・子育て支援機能（約100 m²）

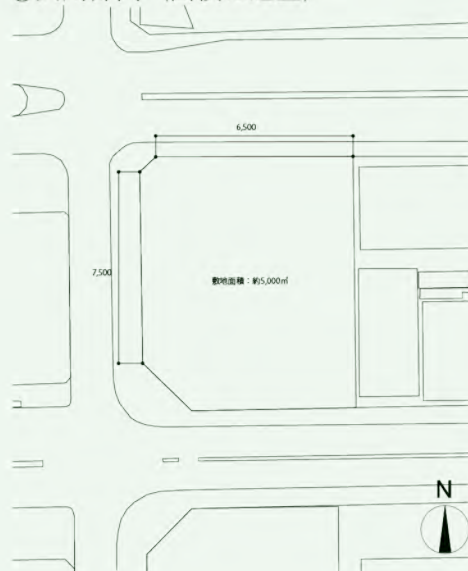
④賑わい創出部門（約2,000 m²）

・イベント/集会機能（約800 m²）

・展示/交流機能（約700 m²）

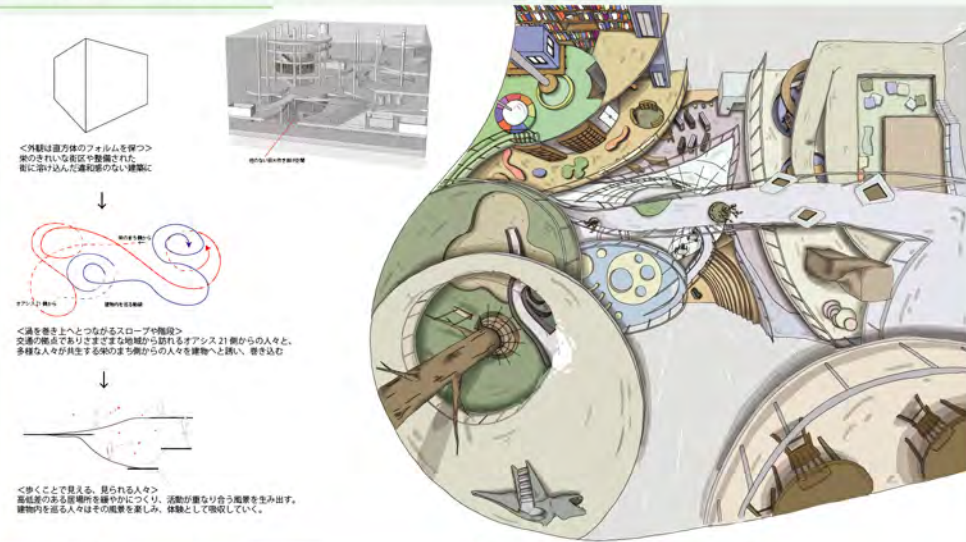
・商業/支援機能（約500 m²）

⑤共用部門（面積は適宜）



旋と鏡

高木柊 松野尾航生 和田明花

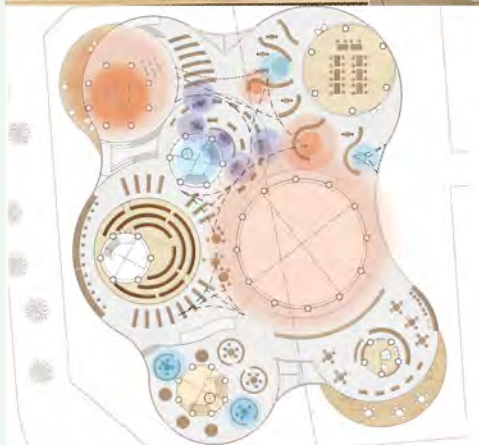


栄の魅力を渦のように巻き込み、建物内を
巡り歩くことで緩やかな繋がりを生む。

オアシス利用者、観光客、住民などがふらつ
と引き込まれ、混ざりあう渦の中での偶発
的な居場所や空間、新しい気づきや学びを
促す。

活動の波紋

石川翔希・白石光・川上衣吹



音楽・演劇・彫刻・絵画など芸術活動を体験する / 模索する複合図書館。活動を発信するイメージから偏心円の重なる平面計画とした。吹き抜けからは上下階の音や人影、光を感じられる。。

斜めの多様性

磯貝由奈 大久保日葉里 岡田萌々花

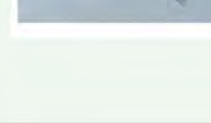


○構成ダイアグラム

①空間を分ける

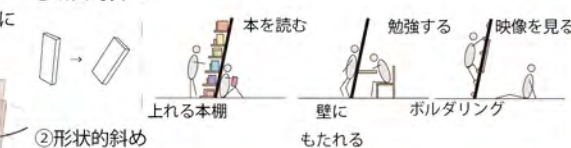


③壁を傾ける



○詳細ダイアグラム

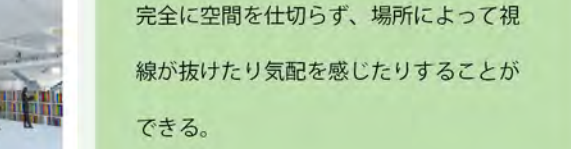
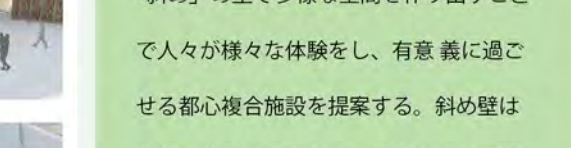
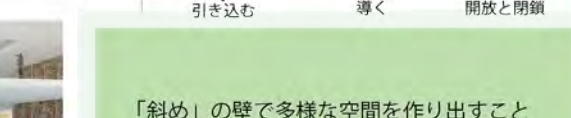
①断面的斜め



②形状の斜め



③平面的斜め



「斜め」の壁で多様な空間を作り出すことで人々が様々な体験をし、有意義に過ごせる都心複合施設を提案する。斜め壁は完全に空間を仕切らず、場所によって視線が抜けたり気配を感じたりすることができる。

エリアリノベーション - 学部三年 後期第一課題 -

担当教員：生田京子・谷田真・久保久志・橋本健史

到達目標

名古屋駅周辺では、現在、リニア開業後のまちを見据えた構想を基に整備が進められています。中でも駅西エリアは、駅西銀座商店街を軸に今でも下町情緒を残す、不思議な感覚がするエリアですが、今後は大きく風景が変わることも予想されます。

・本課題では、そんな駅西エリアを課題地とし、40人程度の人たちを一つの生活単位として考え、彼らとともにどのような住み方ができるのか、どのような相互扶助システムをつくることができるのか、といった観点で持続可能なコミュニティに資する建築を設計して下さい。

敷地

所在地 | 名古屋駅西エリア（駅西銀座商店街周辺）

関連法規 | 商業地域

建蔽率80%

容積率400、500、700、

1000

配置機能

課題を念頭に、計画地のフィールドワークを進め、その状況を分析することにより提案につなげて下さい。

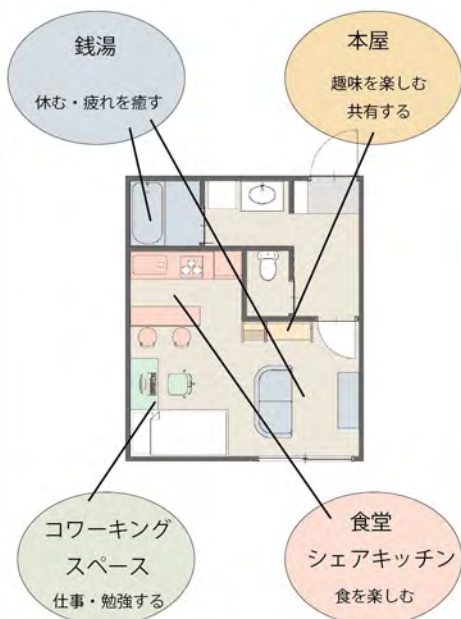
特に、エリア内に現在いる人々とどんな関わりを持って住むことが可能なのか、「住む機能」+ α を考え、提案して下さい。

share town

岡田萌々花



まちにまで暮らしを広げてみる



▶ 商店街から本屋を通り抜け、中庭を通り食堂棟へ繋がる。

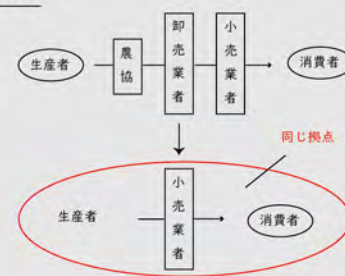


一階に銭湯や食堂など暮らしを街に拡張するための施設を設けることで、人々と交流し豊かに暮らすことのできる住まい方を提案する。テーマごとに分かれた4つの棟はテラスにより繋がり、コミュニティが混じり合う。

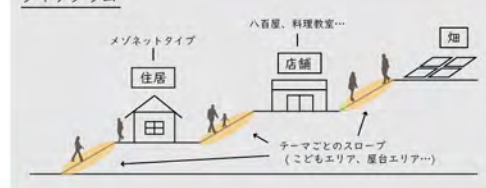
まちなか農業～スロープで巡る駅西の新しい風景～ 磯貝由奈



コンセプト

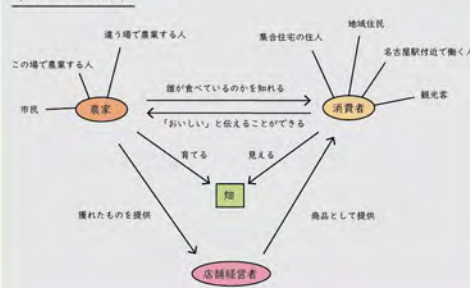


ダイアグラム



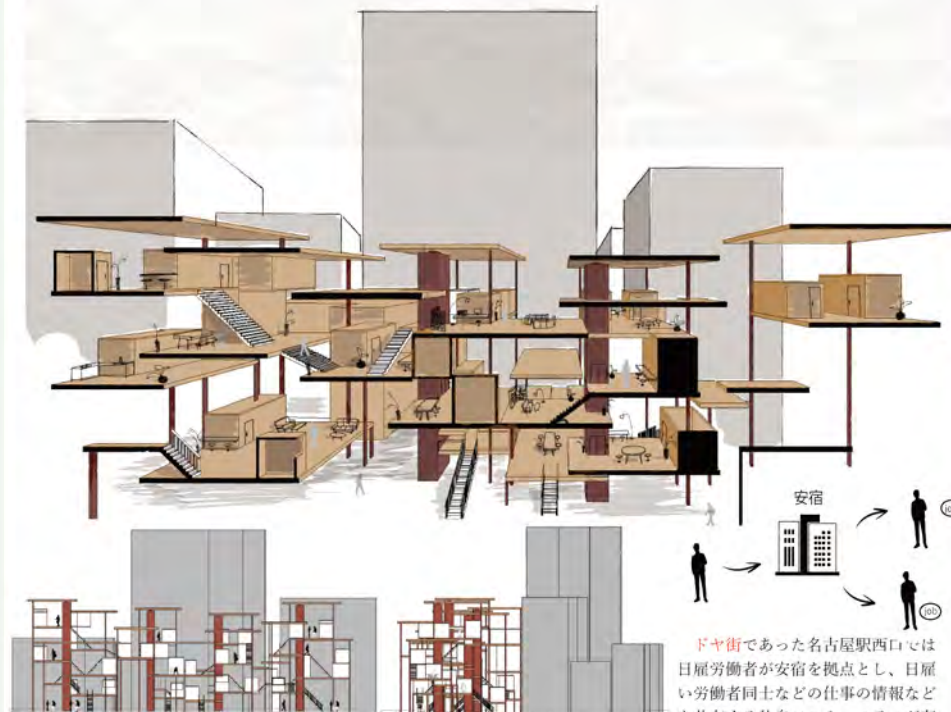
再開発が進む駅西に農業による相互扶助を提案する。「生産者と消費者をもっと近くに」をテーマに、生産者が自分の作ったものがどうなったかを知れる場、消費者が「おいしい」と直接伝えられる場を築く。

ネットワーク図



駅西Co-living 中澤凌大

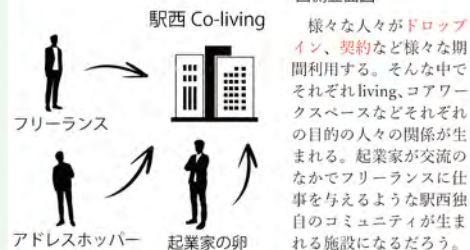
新国際マーケット 塚本莉子



西側立面図

南側立面図

ドヤ街であった名古屋駅西口では日雇労働者が安宿を拠点とし、日雇労働者同士などの仕事の情報などを共有する独自のコミュニティが存在した。その拠点であった安宿は今の駅西にもその名残が見られる。



かつて、駅西はドヤ街であり独自の労働コミュニティが形成されていた。そのコミュニティをリニア新幹線開通により集まるアドレスホッパー、フリーランス、起業家を対象としたインキュベーションコリビング宿施設へと昇華させた。

新国際マーケット



01. システム

本提案では店舗を交流の入り口とし先に進んでいくほど自然と交流が深くなっていく仕掛けをプログラムする。



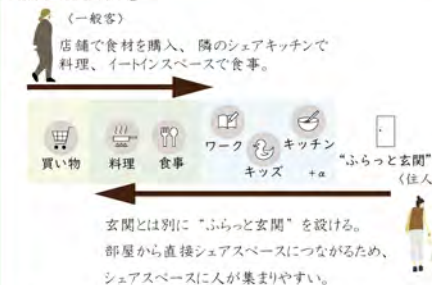
02. マーケット

ネパール、韓国、タイ、ベトナム、中国の5か国物産店が店を構える。

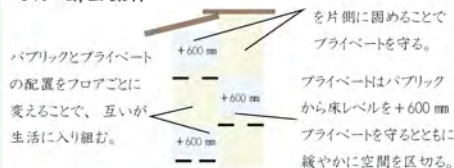


1F 平面図

03. 人の動き



04. 断面操作



戦後、闇市と化した名古屋駅西には中国人や韓国人による国際マーケットが存在した。復興が進み国際マーケットが姿を消すと町も大きく変化した。リニア開通により再び町が変わろうとしている今、かつて失われた国際マーケットを新たな捉え方で復活させる。

体験・滞在型余暇活動施設 - 学部三年 前期第二課題 -

担当教員：高井宏之・生田京子・谷田真・佐藤布武

到達目標

本計画では、「体験・滞在」をテーマとした余暇活動施設の設計を行う。「焼物のまち」として長い歴史と文化を持つ愛知県常滑市を課題地とし、住民と来訪者との関係性を考える課題である。

課題地は、愛知県常滑市栄町のやきもの散歩道を対象とする。今回の課題に取り組むにあたり、敷地選定を各自で行う。分散配置も可能だが、全体として一つの施設として機能するための方策も計画して欲しい。既存建物を建て替えたり、改修・転用しても可。

市ではやきもの散歩道地区景観計画が策定されている。まちなみに配慮しつつ、地域の文化的資源が十分活かされ、まちや地域が活性化するような計画を望む。

敷地

所在地 | 愛知県常滑市栄町

やきもの散歩道 A コース

周辺街区 (約 12ha)

第一種住居地域

建蔽率 60% 容積率 200

準工業地域

建蔽率 60% 容積率 200

配置機能

①制作体験施設

・土の工房 150 m²程度 (手びねり、電動ロクロを使った陶芸作品が制作可能)

・自由工房 150 m²程度

・その他 100 m²程度 (ギャラリー、倉庫等)

②宿泊研修施設

・7 室、定員 40 人

・和室 (4 人用 2 室、8 人用 3 室)

・洋室 (4 人用 2 室) ・浴場あり

・ホール 150 m²程度

・研修室 20 人用 2 室 $40 \times 2 = 80$ m²程度 (仕切り可能)

③展示施設

・ギャラリー 150 m²程度

・レストラン・カフェ 100 m²程度

・ショップ 50 m²程度

風土から体験する

石川翔希



焼き物と密接な関係がある風土を感じながら、日常を忘れて陶芸に集中できる施設を提案する。形を作るだけでなく乾燥も行うため、ジグザグな配置や半地下、窓の位置により、職人でなくても陶芸しやすい空間を設けた。

常滑探検

岡田萌々花

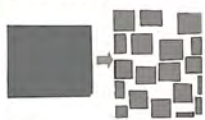


路地は先が見えず、歩くたびに景色が変わるためわくわくしながら進むことができる。そこで既存の路地に加え新しく路地を作り、それらを横道で繋ぐことで、様々なルートで街を探索するように巡ることができる。

ねえ、どこならぶ

松野尾航生

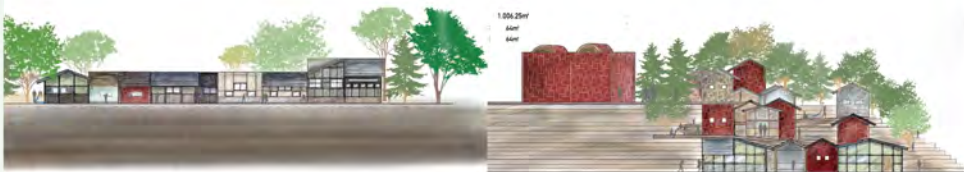
平面計画
機能ごとの建物配置から道を作成する。
もともと大きな工房を分解分散させることで、
道や空間の種類を増やす。



斜面計画
斜面に対して水平に人工床スラブを挿入する。
スラブを削り、斜め方向に動きをつけることで
光の入りに変化をうむ。



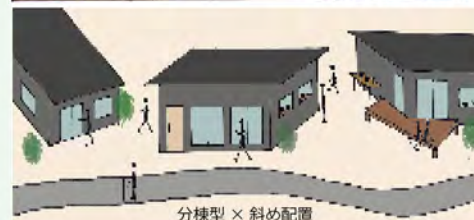
断面計画
平面、斜面計画から、建物と道・スラブの高さを
調整して、常滑らしい断面のあり方を再構築した。
スラブ端それぞれで建物の見え方が変わる。



建物の分解分散配置によって普段の生活にない道や空間の可能性を広げ、人々を引き込み滞留させる。常滑特有の様々な工房 × 道 × 空間を介するコミュニケーションが、新しい住民と来訪者の繋がり方になると考える。

とこなめ段地

田中めい



常滑の土地の魅力に生かされる建築を目指した。体験工房では等高線を利用した段差により登り窯のような空間で焼き物体験ができる。宿泊施設は半分土の中に埋めることで、見える景色が変わったり明暗の差が生まれる。

小学校 - 学部三年 前期第一課題 -

担当教員：高井宏之・生田京子・谷田真・佐藤布武

到達目標

どのような子どもを育てたいのか。本計画では、これからの小学校のあり方について考えることを期待する。

郊外住宅地の小学校の計画である。地域と積極的に関わり、地域の中で存在感があり、共に生きる喜びを分かち合える提案を想定する。また、隣接する川や歩道との関連性についても考慮する。

主に小学生を対象としている。成長期である子どもたちの発達段階の違いを認識し、五感に響く空間を考えて欲しい。学年が異なることで体格・身体能力・心理面での差は大きいことを認識し、学年を超えた多様な活動を誘発する空間についても考えて欲しい。

敷地

住所 | 名古屋市天白区大坪2丁目
1601番地

法規則 | 第一種中高層住居専用地域

延床面積 | 約 8,000 m²

敷地面積 | 12,632 m² (小学校部分) 公園部分 (5,291.9 m²と一体に考えても良いが、公園としての

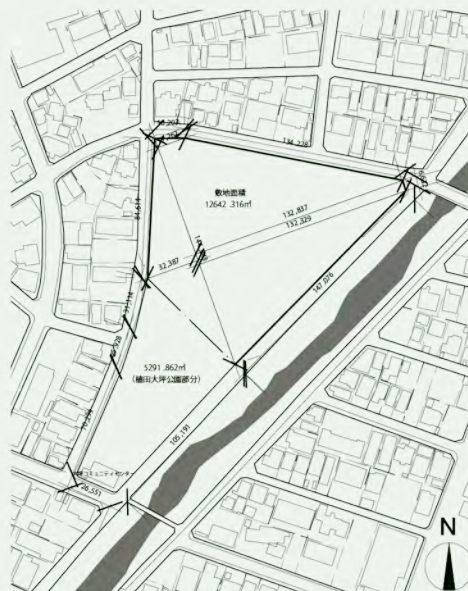
実利用面積は確保

配置機能

主要用途 | 小学校 (地域集会室
小公園を積極的に複合する)

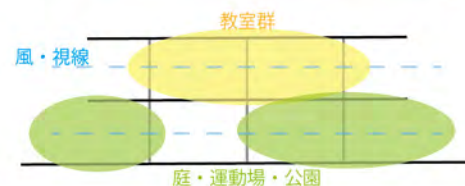
生徒数 | 380人、14クラス
(1~2年 各3クラス・各30名、
~6年 各2クラス・各40名)

教室 | 普通教室、特別支援教室、
家庭科室、音楽室、メディアセン
ター、体育館等



ひろがるがっこう

白石光



スラブを積層させ、大きなピロティと学びの空間をつくる。ピロティは運動場・公園につながる場、野外活動を行う庭となり、学校と街の緩衝地帯として機能する。教室周りには一学年ごとにフリースペースを設けている。

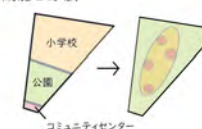
居場所さがし

磯貝由奈

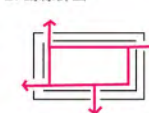


Diagram

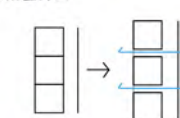
1. 機能を分散



2. 動線計画



3. 配置計画



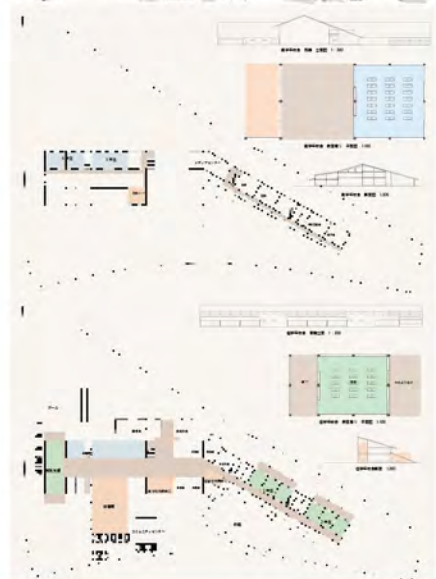
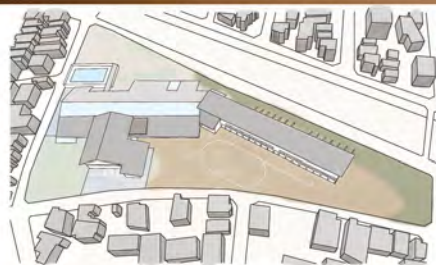
4. 教科ブース



小学生の様子が外に見えない小学校が多いと感じる。もっと外に開き、小学生のためだけでなく、地域の人や近くに住む大学生が気軽に利用できる小学校を提案する。様々な人の「居場所」となるような仕掛けを多く設けた。

木漏れ日小学校

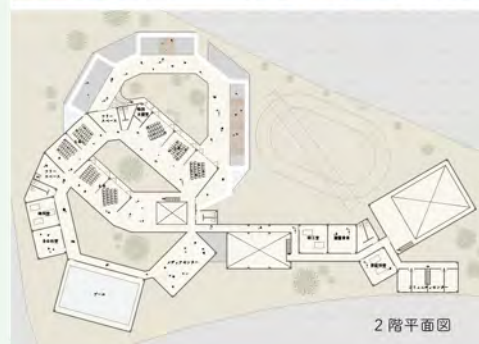
和田 侑也



学校は日常では触れることのできない新しいもの、発見し触れることにより様々な他者の存在を認め、関心を持ち、様々な行動を誘発する場所である。そこで、自由に居場所を選択でき、お互いが間接的に関り合えるような切妻屋根の小学校を提案する。

出会いの小学校

都築 萌



学校は学習の場であるとともに、友達を作り、のびのびと活動ができる場でもある。そこで環形の校舎をずらした配置にし、他学年の生徒がどこにいても違和感を持つことが無く、人との交流が生まれる場を提案する。

商店街に立地する集合住宅 - 学部二年 後期第二課題 -

担当教員：向井一規・桑原雅明・後藤周平・西口賢・佐藤布武・吉村真基

到達目標

現代に求められている集合住宅とはどういうものなのだろうか。

これからの集合住宅のあり方を検討してほしい。

今回は、集合住宅を形成する集会スペース・開放施設などといった諸要素が、どう商店街の再生に貢献するかを検討してもらいたい。円頓寺商店街にとどまらず、那古野のまち全体の活性化に供するような提案を求める。

・子持ちファミリー世帯

約75㎡・3戸以上

これに加え新たな住戸タイプを3戸程度計画しても良い。

②居住者のための相互交流スペース

③地域住民や学生への店舗・開放施設（約300㎡）

④駐車場・駐輪場

駐車場：10台以上

駐輪場：10台以上

敷地

住所 | 愛知県名古屋市西区那古野

1丁目

敷地面積 | 約880㎡

用途面積 | 商業地域

建蔽率80%容積率400%

配置機能

全体で1,500㎡から2,000㎡を計画し、以下の機能を入れること。

①賃貸集合住宅12戸～15戸

・SOHO向け住宅

約80㎡・3戸以上

・集合住宅内に店舗を営む世帯

約70㎡・3戸以上

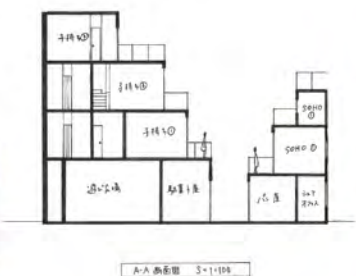
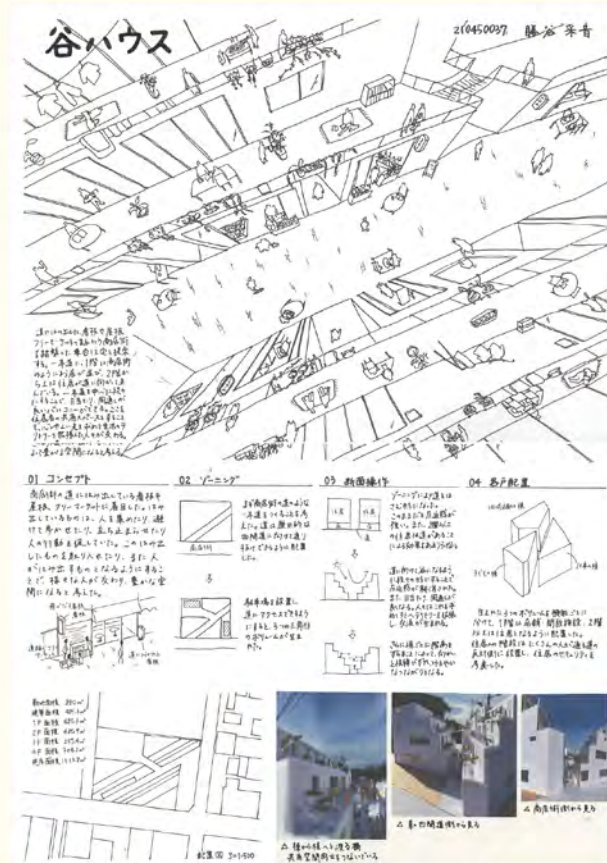
・地域活動に従事する高齢者世帯

約40㎡・3戸以上



谷ハウス 勝谷采音

道が編み出す交流 磯村今日子



はみ出した看板や屋根、フリーマーケットで賑わう商店街を踏襲した集合住宅を提案する。建物を段にすることで生まれたバルコニーで、部屋からはみ出した人が交流しそれにより賑わった谷が新たな人々を引きつける。



アーケード下のにぎわう道、生活感あふれる路地道、二つの雰囲気の異なる道を楽しめるという円頓寺商店街の魅力を取り入れた。二種類の道を作り、店舗、住居、通路が入り組むことで多様な交流、居場所が生まれる。

おかえりの路地

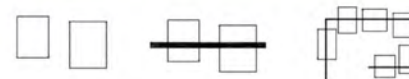
中村千紘



路地と縁側で集合住宅の住人と商店街に来る人が「おはよう」などと、気軽に声をかけられる空間をつくる。また誰でも利用できる食堂を商店街から奥の方に設けることで人の流れをつくり、交流を促す。

繋げる壁

佐藤翔真



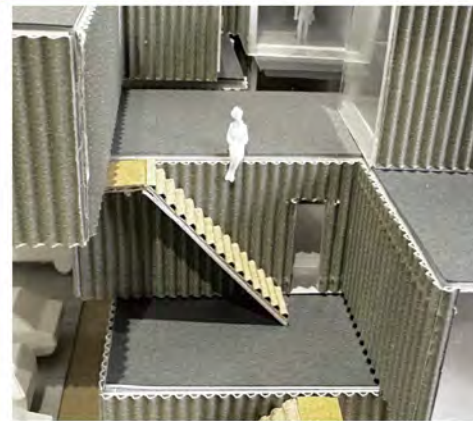
1枚の巨大な壁により繋がれた住戸部分は、内側が外部に開放されアート活動を行う作家のアトリエとなる。アートをきっかけとした居住者と外部の自然な交流と新たな感受性が飛び交う空間を目指した。

集まって楽しむ 本杉愛梨



下層部の公園と一体化し都市に開いた集合住宅。上層部はアーケードの上にして視線をカット、また住戸を立体的にずらしながら配置して商店街の賑やかさを表現すると共に、互いに視線をずらしプライバシーを守る。

持ちつ持たれつ 久安舞



使用頻度の少ない「もの」の共有、高齢者や子どもの様子が共用部や窓から確認できる「安全」など、さまざまな面で集合住宅内の人々に「持ちつ持たれつ」のシェア空間を提案する。

自邸 - 学部二年 後期第一課題 -

担当教員：向井一規・桑原雅明・後藤周平・西口賢・佐藤布武・吉村真基

到達目標

“将来の自分の家”について、考え、提案してください。

「1. 敷地」についてよく検討し、
「2. 建築家としての自邸」を、「3. 発表」してください。

1. 敷地 |

敷地のポテンシャルを最大限に引き出す建築のを考えてください。

2. 建築家としての自邸 |

これからの「家」とはどうあるべきなのか、想像してください。

3. 発表 | 建築作品を通して、未来に向けたメッセージを。

一つの建築作品から、新しい時代の考え方や快適性など何らかの提言をし、多くの人の心に響かせるにはどうしたらいいのか。その可能性を育んでいってください。

皆さんは、新しい空間の発明家です。自分が作り出した空間の素晴らしさを冗長に語り、そんな新しい空間の作り方が、社会に派生していく。その結果、未来が今よりも楽しくなっていく。

そんな作品を作ってください。

敷地

住所 | 愛知県名古屋市天白区八幡山

用途地域 | 第1種低層住居専用地域

敷地面積：388 m²

建蔽率 80% 容積率 400

配置機能

・建物規模

延床面積：150 m²以上

階数：自由

・構造

構造形式を十分に検討すること。



Hanging KDL

遠上朋暉



L字型の構造がそれぞれ向きを変えて重なることで周囲に対して「プライバシーが守られた空間」と「開放的な空間」を生み出した。特に二階の部屋はまるで道路の上に浮いているようなKDLを目指してデザインした。

植物による変化のある暮らし

磯村今日子



ずれでできた隙間、部屋と部屋の間にあるサンルームから植物の変化を取り入れる。生活の中に植物が入り込み、植物の変化を五感で感じることで、日によって違う楽しみ方ができる家を提案する。

核がある家

田口心唯



ダイニングを核とし、1階は公の空間として水回りをダイニングを中心に直線上に配置し、2階は私の空間として子供部屋、寝室、書斎を円状に配置した。外と内の中間領域で緑をより近くで楽しむことができる。

受け容れる家

澤田明里



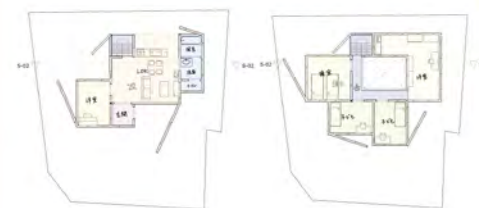
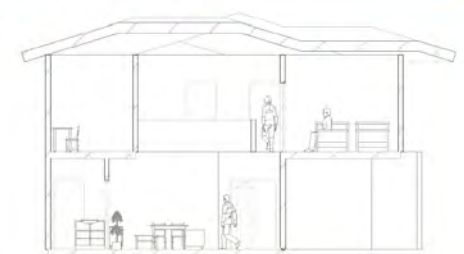
内庭に囲まれ移りゆく季節を光と風景を感じながら過ごす。柔らかく差し込む光が暮らしを彩り家族の居場所を導く。伸びやかに暮らす風景を表現した空間は、家族の自由な振舞いを“受け容れる”のではないだろうか。

間のある家。 本杉愛梨



縦、横のずれにより生まれる「間」、中央の土間により生まれる「間」、室内と屋外をつなぐ「間」の3つの間を設ける。敷地の高低差を利用したスキップフロアで構成され、壁要らずの大空間を作り出している。

提灯 増田広海



敷地周辺は街灯が少なく夜になるととても暗いため、夜の街に光を与える住宅を設計した。開かれた壁やガラスの床から漏れ出す光は街の明かりとなり、その光によってできる影で住む人の存在を感じることできる。

成長する空間・場 - 学部二年 前期第二課題 -

担当教員：三谷裕樹・生田京子・彌田徹・丹羽哲矢・大前貴裕・佐々木司

課題内容

本課題では塩釜口駅付近の、街の新しい顔となる建物をデザインしてほしい。

敷地は、塩釜口駅の出入口に接する。塩釜口駅付近は、様々な店や駐車場が混在し、賑わいがある一方で、統一感もなく、どこか街の個性を感じづらいエリアとなっている。

この街に、学生と地域の人が共に使用し交流する空間を構想し、新たに街を活性化させるような建築を考えて欲しい。

タイトルは「成長する空間・場」となっている。このタイトルは以下のいずれととらえても構わない。・学生と地域の人が交流し、成長するための場・空間や場そのものが、時間経過によって変化・成長する。

敷地

住所 | 名古屋市天白区塩釜口2丁目

建築面積 | 303 m²

用途地域 | 近隣商業地域

建蔽率 80% 容積率 400

配置機能

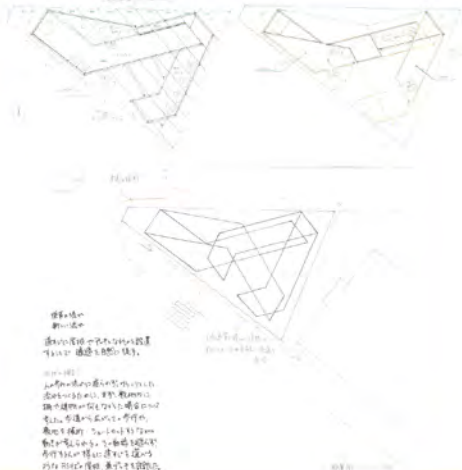
建物は 24 時間オープンを前提とする。面積は、各自で自由に設定する。下記の 1-4 の機能を必ず設け、更に、下記にない機能も、自由に付け加えても構わない。

- 1 カフェ（軽食の提供・学生自身が使え簡易キッチンなど。）
- 2 学生や地域住民のサークル活動などに使えるレンタル室（会議用など。）
- 3 学生や地域住民の展示ギャラリー
- 4 学生用の制作スペース（建築学科の学生も使用!）



塩釜アプローチ

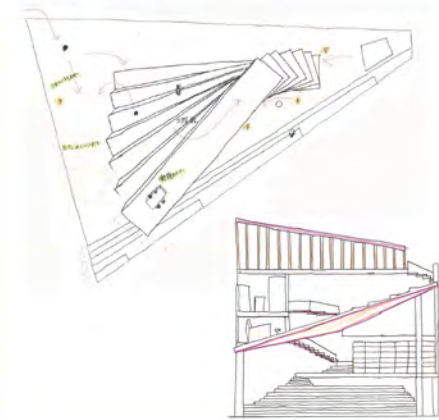
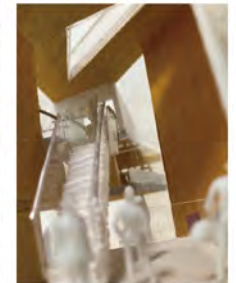
甲斐百恵



駅を利用する多くの人々が敷地の周辺を通過する。施設により、敷地自体が通過の空間「地域と外をつなぐアプローチ」となることを目指した。動線上に屋根兼デッキとなる施設を設計することで通過を自然と促した。

相乗効果のミチ～街の人のパワーに巻き込まれ巻き込み成長する交流施設～
犬飼采那

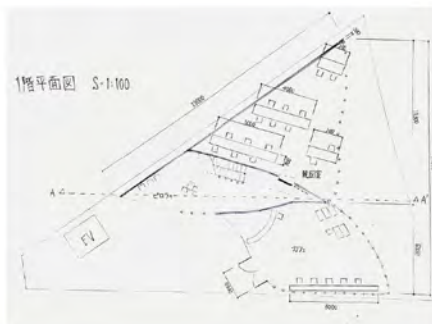
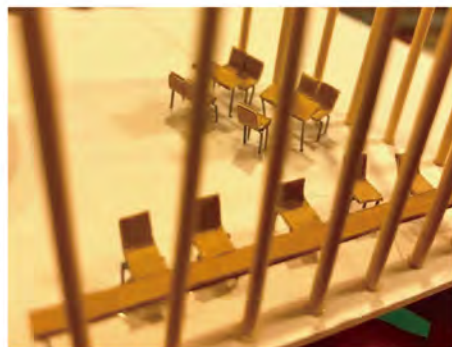
犬飼采那



空間を一本のミチが巻き上がるように繋げ、視線や動きを誘うような工夫をし、斜めの要素を複数取り入れて空間全体の一体感を増幅させた。互いの存在を感じ合うことでミチのパワーが湧くようなものを目指した。

Flapping

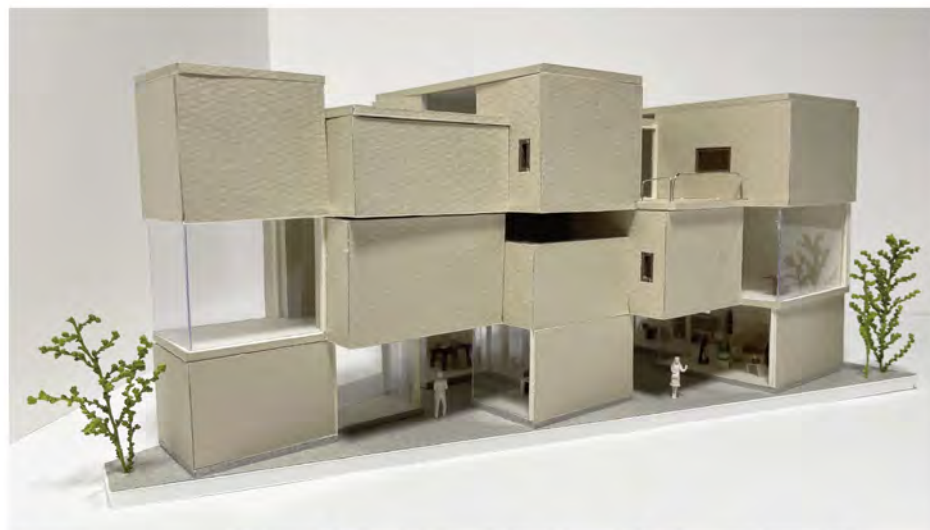
中村千紘



蝶がサナギから成長し、羽ばたいてい
るように見える屋根をつくることで、
学生と地域住民、建物が一緒に成長す
るのを感じさせる。また会議室を未来
的なスケルトンにすることで、圧迫感
がなく信頼性を確立する。

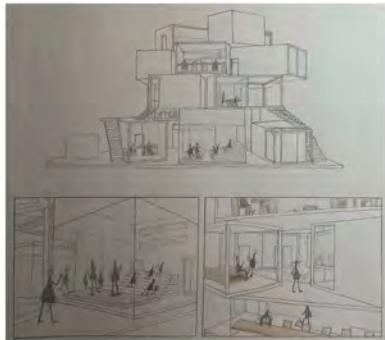
ゆとり

澤田明里



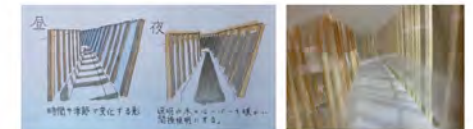
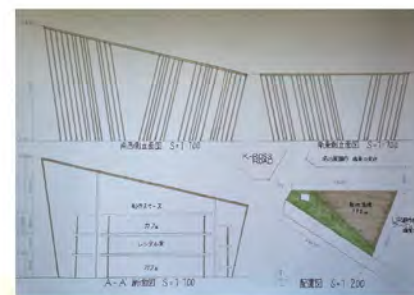
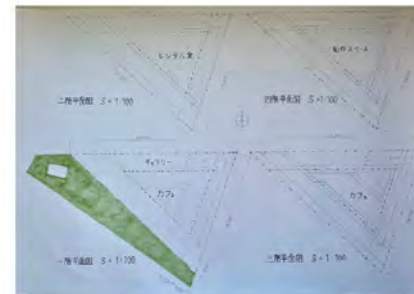
塩釜口のまちの文脈から、三角敷地の
【軸のずれ】に着目した。社会や人間
関係と距離をとることができ、周辺環
境に対して違う向き合い方をすること
でこの場所に多様性を与えるような空
間を提案する。過を自然と促した。

居場所 本杉愛梨



機能別に分かれた箱を縦、横にずらして配置をし、視線の先に興しきを作る。ガラス張りの箱は人を惹きつけ、気軽に立ち寄ることができる人々の居場所となる。

見え隠れする建築 伴拓実



ルーバーによる空間の変化。角度や間隔の異なるルーバーが重なることにより中の様子や人のふるまいを覗かせる効果。昼にはルーバーがランダムな影を落とし、夜には暖色の照明が木のルーバーを暖かい間接照明にする。

自室の設計 - 学部二年 前期第一課題 -

担当教員：三谷裕樹・生田京子・彌田徹・丹羽哲矢・大前貴裕・佐々木司

課題内容

今回、あなたは初めての設計課題として、5m 立法の自由に使用できる空間が与えられる事になった。このスペース・空間の中で、貴方の生活空間を自由に構想してほしい。近くに親がいる主屋があり、三度の食事の心配は幸いな事に、いらない。各自のライフスタイルや趣味などを反映した、貴方だけの「5m 立法の自己の生活空間を考える。」自室の設計課題である。

身体感覚を養う課題として

空間設計の基礎として、自己の人体寸法や動作寸法、自己の生活空間を測り身体と模型で考える事。日頃から、心地良いと思った空間の広さ、高さ、座り心地のいい椅子の形と寸法・・・等を測る習慣を身につける事。自身のスケール感を養っておく事が大切である。

敷地

周辺環境や敷地形状などの想定は自由である。

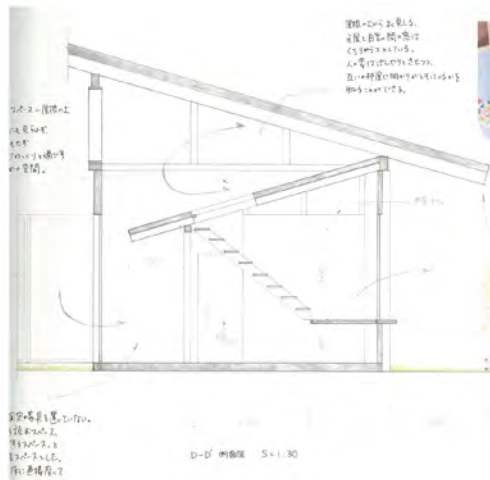
例えば、静かな森の中の湖畔でも、

砂漠のオアシスの 夕日を浴びる
一画でも、海辺の岸壁の頂きでも、
大都会のまっただ中でも、小学時代の思い出の、小さな街の分かれ道に沿った三角地でも、どこでもよい。

設計条件

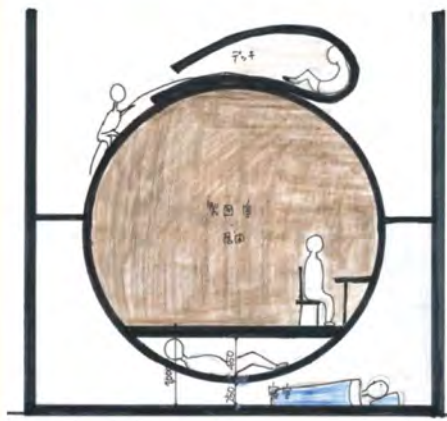
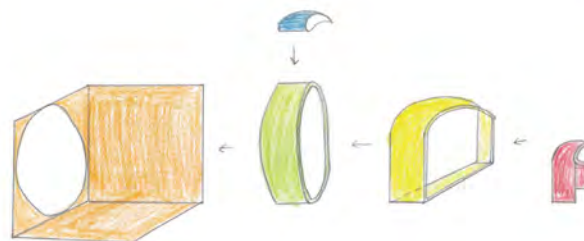
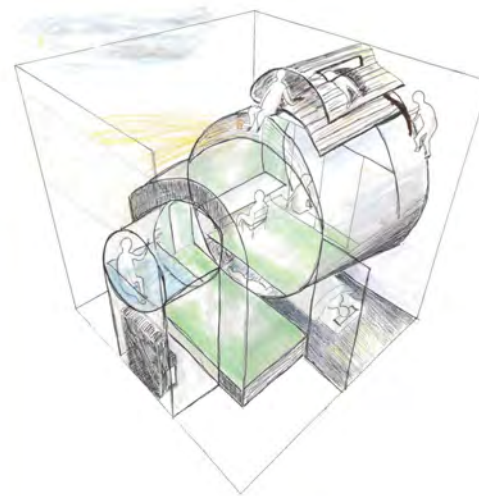
5m 立法の範囲で設計する。大きい、小さいのボリュームは認めない。はみ出た洗面コーナー等も不可。建築科の学生ゆえ、学習・製図コーナーは必須です。主屋で、すますでなく、WC、風呂も必須とする。その他は各自、自由に設定する。(たとえば、友を招き入れてのバーコーナー、趣味のスペース等。)

屋根の下、屋根の上
甲斐百恵



母屋と共有する屋根と、上ることができる室内の屋根の二つを持つ。「屋根の上」のように誰も来ない一人で過ごす空間でありながら、常に誰かの気配を感じていられる「屋根の下」の空間であることを目指した。

まるん喫～まるの挑戦と可能性～
犬飼采那



大きさの異なるまるをずらしながら連結させたり、曲面に映し出された光の反射の美しさ
を水を用いて拡張したり、まるにより生じた
外側の空間を活用したりと、心躍らせながら
まるの美と可能性に挑戦し空間を作った。

階段で暮らす

西澤由翔



幼少の頃、家の階段に座って本を読んだり絵を描いたりするのが心地良かった。
そんな体験を再現した。並木道の木々が段によって異なる表情を見せるような開口と階段の配置を目指した。

可変する部屋 -フェンスを使った暮らし-

澤田明里



【フェンス】という建材を用いて、用途や季節によって部屋の形を決め、日々の固定された暮らしに変化を与える。5m 立法の空間に、自分自身や環境へ応答しながら暮らしていく「可変する部屋」を提案する。

遊～自然との共生～

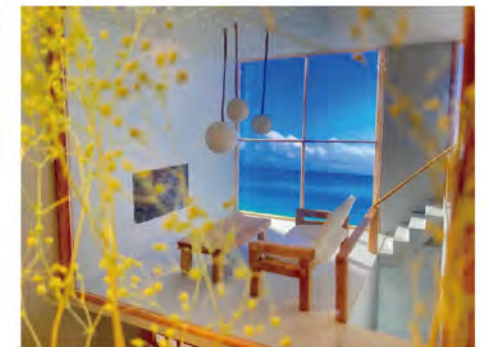
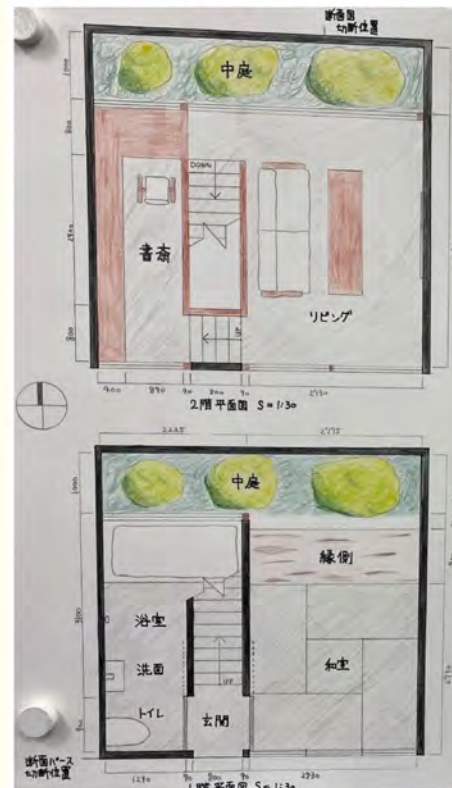
本杉愛梨



自然に包まれた場所に位置し、秘密基地のような遊び心のある建物。全ての部屋に開口部があり、自由に部屋を行き来できる。空間を余らすことがないよう階段下までの本棚やハニカム構造で空間を覆う。

自然を感じるスキップフロアの自室

伴拓実



自然は人工物と共生することで対比されより際立つ。これをコンセプトに空間のあらゆる所で対比関係を作った。さらにスキップフロアを採用し間仕切り壁のない連続的な空間を目指した。

2022年の出来事(建築学科HPのnewsより)

- 3月
 - 中根健太さんが日本建築学会東海支部学生学術講演賞を受賞
 - 佐藤助教らが山形県飯豊町と共催で修士論文発表会を開催
- 4月
 - 入学式
- 9月
 - 佐々木睦朗先生の講演会を開催
 - 中根健太さんが日本建築学会大会学術講演会・若手優秀発表賞を受賞
- 10月
 - 卒業制作中間審査会及び建築家講演会の開催 / 藤村龍至さん
- 11月
 - とよはし公共建築学生チャレンジコンペティションにおいて
福井俊介さん、西野侑花さん、草野しおりさん、
石川翔希さん、天野竜太郎さん、都築萌さんが特別賞を受賞
 - 松田研究室が異業種交流会メッセナゴヤにおいて研究成果の技術展示
- 12月
 - 建築家講演会の開催 / 萬代基介さん
 - 建築家講演会の開催 / 平田晃久さん
 - 第4回建築系愛知15大学共通設計協議において
阿部航さん、磯貝由奈さん、大久保日葉里さん、白石光さんが優秀賞を受賞
- 1月
 - 石井教授、吉永教授、松田准教授が名城大学リサーチフェアで出展
 - 谷田研究室による多治見市タイルミュージアムでの取り組みが、
中日新聞・岐阜新聞に掲載
- 2月
 - 卒業論文審査審査会を開催
 - 卒業設計審査会及び作品展を開催